

審査の結果の要旨

氏名 森 下 美 紀

本研究は、がん拠点病院を含む一般病棟に入院中の終末期消化器がん患者の家族介護者において、家族介護者が認識する患者と家族介護者への医療者から受けたケアの満足の内容を質的に明らかにすることを目的とした。また、ここで抽出された内容をケアの満足度尺度とし、**Quality of Life (QOL)** の実態、ケアの満足度を中心とした **QOL** の関連要因を量的に明らかにすることを目的としたものであり、下記の結果を得ている。

1. ケアの満足の内容を明らかにするために、家族介護者に対して面接調査と診療録調査を実施し、質的内容分析を行った。その結果、「疼痛や消化器症状をはじめとした苦痛症状に対する、緩和への迅速さや的確さ、配慮がある」(8 サブカテゴリ)、「専門性のあるスタッフの役割を發揮し、スタッフ間の連携や一貫性を持つ」(7 サブカテゴリ)、「それぞれの患者に合った検査および内服の説明や、患者と家族介護者へのこれからの治療方針を含めた情報提供がある」(4 サブカテゴリ)、「現在までの治療過程に対しての家族介護者の納得と、治療過程の理解を持った関わりがある」(4 サブカテゴリ)、「ケアへの参加の促し」(2 サブカテゴリ)、「家族介護者の精神面や日常生活への気づかいがある」(5 サブカテゴリ) の 6 カテゴリ 30 サブカテゴリの内容が明らかになった。
2. **QOL** の実態を明らかにするために、**MOS 8-item Short-Form Health Survey (SF-8)** の得点と国民平均値の得点を、1 標本 t 検定と **Cohen** の効果量を算出することにより比較した。また、**Caregiver Quality of Life Index Cancer (CQOLC)** については先行研究の家族介護者得点と 1 標本 t 検定で比較した。その結果、**SF-8** は国民平均値と比較してすべての項目で有意に低く、**Cohen** の効果量は **Physical Component Summary** と **Mental Component Summary** それぞれに対して 0.4、2.2 であった。また、**CQOLC** は治療期を多く含む在宅がん患者の家族介護者と比較して「心理的負担感」についての得点が有意に低かった。これらの結果から、一般病棟に入院中の終末期消化器がん患者の家族介護者の **QOL** は国民平均値や治療期のがん患者の家族介護者より低く、精神面を中心とした支援の必要性が示唆された。
3. **CQOLC** の合計得点をアウトカムとした重回帰分析を行った。説明変数には、ケアの満足度の合計得点、介護負担感尺度 (**Caregiver Reaction Assessment-J**) の 5 下位尺度のうち「日常生活への影響」「ケアに関する受け止め」「健康状態への影響」の 3 下位尺度、家族機能尺度 (**Family Relationship Index**) の合計得点のほか、先行研究でケアの満足度や家族介護者の **QOL** に関連していると言われている家族の年齢、

経済的ゆとりの認識、配偶者か否か、患者の Performance Status、スピリチュアリティ尺度 (Spiritual Rating Scale-A) の合計得点を強制投入した。その結果、ケアの満足度の合計得点が高いほど QOL が高いことが示された ($\beta = 0.246, p = 0.043$)。

4. ケアの満足度の下位尺度ごとの CQOLC 合計得点との影響力を調べるために、3. で作成したモデルにおいて、「ケアの満足度の合計得点」とケアの満足度尺度の 6 下位尺度を 1 下位尺度ずつ入れ替え、それぞれの標準化偏回帰係数 (β) と決定係数 (R^2) を算出した。その結果、ケアの満足度の中でも、「疼痛や消化器症状をはじめとした苦痛症状に対する、緩和への迅速さや的確さ、配慮がある」 ($\beta = 0.249, p = 0.027$)、「現在までの治療過程に対しての家族介護者の納得と、治療過程の理解を持った関わりがある」 ($\beta = 0.230, p = 0.048$) ことが QOL に関連していた。したがって、ケアの満足度を高めるために苦痛症状への対処の仕方や、終末期であってもこれまでの治療過程の理解をもった患者と家族介護者への関わりの重要性が示唆された。
5. ケアの満足度の他には、家族介護者の年齢が高いほど ($\beta = 0.342, p = 0.016$)、経済的ゆとりがあると認識しているほど ($\beta = 0.254, p = 0.032$)、家族介護者自身の健康状態に影響していると負担に感じていないほど ($\beta = -0.542, p = 0.001$)、家族機能が良いほど ($\beta = 0.245, p = 0.019$)、QOL が高いことが示された。

以上、本論文は、がん拠点病院を含む一般病棟に入院中の終末期消化器がん患者の家族介護者における、家族介護者が認識する患者と家族介護者への医療者から受けたケアの満足の内容、QOL の実態、ケアの満足度を中心とした QOL の関連要因を明らかにした。本研究はこれまで未知に等しかった、一般病棟に入院中の終末期消化器がん患者の家族介護者の QOL を高めることを目指した具体的支援策の提案に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。